

宮城沢川山道の植物相 (予報)

札幌市 助野 実樹郎

はじめに

宮城沢川は百松沢山 (1037.8m) の北側斜面に端を発し、概ね北東方向に山地を流下する琴似発寒川の一支流である。行政的には札幌市西区に位置する。宮城沢川には、手稲平和霊園から約 1km 先の砂防施設まで未舗装道路があり (関係車両以外の通行不可)、筆者は「宮城沢川山道」と称することにした。

宮城沢川の植物相については、北海道植物友の会による記録 (1990) や原 (1992) の記録がある。また、原 (1992) は、宮城沢川を含む札幌市とその周辺の 53 の地域における植物の目録と分布表を整理しているが、公表からおおよそ 25 年経過しており、近年における宮城沢川の植物相についての報告はみられない。昨年は札幌市版のレッドリストが公表され、生物多様性の保全ならびにその教育・研究のため、札幌市に生息・生育する動植物の現状について、順次最新の情報に更新していく必要もあると考える。

そこで筆者は、現地踏査と文献調査をもとに、宮城沢川山道の植物リストを作成し、宮城沢川山道とその周辺の植物相について、その現状を把握するための課題を検討することとした。

現地踏査の概要

現地踏査は 2013 年 9 月 13 日、2015 年 9 月 18 日、9 月 26 日、2016 年 5 月

30 日、7 月 23 日、9 月 9 日に実施した。これらの一部は、札幌科学技術専門学校、自然環境学科の環境調査実習の一環として実施した。現地踏査の範囲は、概ね標高 210-250m に相当する。植物相の報告としては証拠標本をとまなうことが望ましいが、植物保護の観点から、検鏡による識別形質の確認が適切と考える分類群を除いて採集をしなかった。そのため検討の必要な分類群も残されており、次号以降に「補遺」というかたちで報告したい。

植物相調査の展望

現地踏査ならびに文献調査の結果 94 科 438 分類群 (種、亜種、変種、品種を含む) の維管束植物を確認し、リストを作成した (付表)。確認した植物の科名、和名、学名ならびにそれらの配列については、APGIII の分類体系 (2009) に基づく松井・高橋 (2015) の分類目録に依拠した。文献調査により確認した植物が 94 科 416 分類群となっており、現地踏査により確認した植物が 77 科 265 分類群となっている。

文献調査では、植物友の会 (1990) や原 (1992) の記録から宮城沢川で確認された植物を抽出した。これらの記録の元となった調査の正確な踏査範囲は不明だが、筆者の現地踏査は「宮城沢川山道」沿いを中心とした限定的な範囲にとどまっている。そのため確認植物数が比較的少なかったと考える。とくに岩上や岩壁にみられる